

A家住宅 調査報告

氏名：株式会社ケービーケー久保田一級建築士事務所 佐藤節子

物件名：A家住宅

所在地：山梨県身延町

(町名まで)

写真：



建造物の特徴・選択した理由等：

A家住宅は山梨県身延町の山間斜面地集落に建つ養蚕住宅である。棟札には表面は日蓮宗御本尊の文字曼荼羅、裏面は「干事 明治三十七年十二月大安日〇〇米蔵新調之矣 令百由旬内無諸衰患 居屋立替移住之砌」とある。棟梁の名の記載がない事から、明治37年に大工であった曾祖父の米蔵が自ら建てたと推定できる。A家は代々村役場で重役を務め、眺望の良い頑固な石垣上に東南向き立地、中潜り門を持つ。近隣には江戸時代初期の茅葺民家が町文化財として指定されているが、A家住宅の屋根は農村養蚕住宅に特徴的な煙抜き腰屋根が付き、入母屋椽瓦葺き、小屋裏（木造三階建て）差物構造である。2階の軒は先階（せがい）造りで出を深く取り、腰窓には養蚕住宅には珍しく雨戸付き濡れ縁が設置されて外観意匠に魅力を添えている。隣町に赤沢集落があり、その旅籠の濡れ縁に類似している。座敷、奥座敷は付長押10畳二間書院付きとなる。広縁は改修で間を広げた痕跡があり、天井は全部屋根太天井にて一部改修により化粧天井張となっている。大黒柱は檜290*320、小黒柱は檜165*135、その他はツガ無垢材、檜材135角でいずれも地山の木材を使用している。大戸は檜板、千本格子戸など地域性が感じられる。現在の土間から西は元来全土間であったが、改修により洋間、奥の台所に床を張った。土間奥には、イドコがあり、茶の間的な使い方であった。2階は年の大半は畳を上げて養蚕場、1階からの温熱が上階に登るよう床に小穴が施される。小屋裏は、一番暖かく、眉の巣箱を掛けて回転させた。明治～昭和初期地域の生業であった養蚕営業の面影を十分に残し伝える貴重な建物である。

活用イメージ：

過疎化が進むこの地域は、高齢者が歩く姿も稀で、秋山家も現在は住人不在である。そこで希望にあふれる若い農村移住希望者が「試住」できる場として畑付きで開放する。オーナーが「あけぼの大豆」の生産者でもある事から、地域特産のまぼろしの「あけぼの大豆」の営農指導、町の移住支援、就農支援などを組み合わせて三年間の支援体制を整えて移住者を定住に導く、そのような活用を企画する。地域の歴史建物に住むことで、様々な地域行事を通じ短期間で地域住民としてなじみ、既住民とのコミュニケーションも構築できる。

ハード面では、寒い地域故、断熱改修、隙間塞ぎ、また水周りの改修を要する。インターネット環境整備を行う事で、リモートワークの副業として農業で生計を立てる、二拠点居住の地方拠点とする、など多様な提案ができ、相談体制も充実させる。

「まずは住んでみろし。」一過性のイベント事業ではなく、定住を焦点とする。地域の「ひと」と「ひと」の繋がりが幾重にも結ばれるよう、また安定した収入、経営維持においても持続的なフォロー体制が重要である。空き家が多いこの地域でネットワークを構築し、様々な生活スタイルを応援推進する、地域一丸となったモデル事業として提案したい。